

用語解説

ブラジルのガリンペイロについて*

貝田 マルシア明美¹⁾・村 尾 智²⁾

リオデジャネイロで開催される第31回万国地質学会議が近づいてきた。すでにセカンドサーキュラーが送付され、関係者は準備に向けて動き出したようである。今回のプログラムをみると「スモールスケールマイニング」という耳慣れないセッションが設けられている。「スモールスケールマイニング」とは、個人あるいは小規模な集団が鉱産地帯に多数群がり、鉱山会社とは関係なしに高価格鉱物を採掘・販売する現象である。ブラジルは鉱物資源に恵まれた国であるため、このような形態で鉱物を採掘する人々が非常に多い。同国の地質学界はこれを無視できないのであろう。

スモールスケールマイニングに従事する人々の呼称は国ごとに異なるが、ブラジルの呼称「ガリンペイロ」は最もよく知られており、いわばスモールスケールマイニングに従事する人々の代名詞となっている。そこで本稿ではこれについて簡単に解説したい。

ガリンペイロ(garimpeiro)および動詞のガリンパール(garimpar: ガリンペイロとして採掘する)はポルトガル語だがフランス語の「grimper」に由来すると言われている。ブラジルのポルトガル語はフランス語など外来語の影響を受けている。「grimper」は「登る、はい上がる、よじ登る、飛び越える」という意味である。これが「grimpar」という形に変化し、さらに「garimpar」となったらしい。「garimpar」は1844年頃までさかのぼる事ができ、現在は「1-棚を登る、よじ登る、上がる; 2-頂上に到達する; 3-誰かに襲いかかる」という意味を持つが、あまり使われる言葉ではない。「garimpeiro」の方は1881年頃までさかのぼる事ができ、当初は不法採掘場で高い場所によじ登る見張り人を指していたようだが、その後、鉱産地帯で人目を忍んで宝石を探し当て密売する者も意味するようになった。

ただしガリンペイロは一般には密売人だけでなく「宝石や金属、砂金の採掘者」、「鉱山労働者」という意味でも用いられている。現在は「労働者ガリンペイロ」と「事業者ガリンペイロ」の二つの意味を持っている。前者はスモールスケールマイニング従事者(いわゆるスモールスケールマイナー)だが、後者は鉱区保有者で合法的な稼行をする人である。

採掘場を意味するガリンポ(garimpo)はガリンペイロの派生語である。砂金の場合、ガリンポには川に筏を浮かべて川底の金を採る筏ガリンポと、周辺の低地に穴を掘って砂金を採る低地ガリンポの2種類がある。

ガリンペイロは語源からすると反社会的ニュアンスがありそうな言葉にみえる。しかしブラジル人はここからあまり悪い臭いを嗅ぎ取らない。たとえばブラジルの文学や言語学の世界では、使用頻度の低いことばや古典的表現を細心に捜す作家・学者のことを比喩的にガリンペイロと呼ぶ。その作業が砂金を捜すような注意深さを要するからである。この用例に悪いイメージは全くない。ただし、最近ではガリンペイロがアマルガム法による金の抽出によって土壌、水系の水銀汚染を引き起こしたり、土地所有を巡る争いを起こすなどの事例があるため、マイナスのニュアンスが増えつつある事は否定できない。

ガリンペイロに限らずスモールスケールマイニングに従事する人々は世界各地に膨大な数で存在する(一説には1300万人といわれる: ILO 1999)。このため資源管理への影響や環境への負荷が大きく、スモールスケールマイニングは新たな地球環境問題となりつつある。平成11年2月5日朝日新聞朝刊でもガリンペイロによる水銀汚染が原因でアマゾンに水俣病が発生している事実が報じられた。各国政府とも法令整備に力を入れているがあまり効果は出ていないようである。ブラジルの場合も1989年にガリンペイロを管理する法令が認可されたが問題が多く有効に機能していないと言われる。しかしながら世界中で状況は深刻である。法令が有効に機能しない理由も含めて総合的な調査を行い解決策を探ることは急務である。

参考文献

- 朝日新聞朝刊(1999年2月5日): アマゾン 水俣病の確認。
Cunha, Antonio Geraldo da (1977): Dicionário Etimológico Nova Fronteira da Língua Portuguesa. 2a. edição. 9a. impressão. Rio de Janeiro, Nova Fronteira.
Ferreira, A. B. de H. (1977): Novo Dicionário da Língua Portuguesa. Rio de Janeiro, Nova fronteira.
<http://www.ilo.org/public/english/235press/pr/1999/10.htm>
<http://www.rao.zaz.com.br/riosul/>

1) 広島大学大学院教育学研究科:
〒739-0046 広島県東広島市鏡山1丁目
2) 地質調査所 資源エネルギー地質部

* 本報告は環境庁地球環境研究総合推進費FS-5による研究の一部である。